

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析	
体力・運動能力 ＜男子＞	○全国・札幌市の記録と同程度もしくは上回った種目 ・なし ○全国・札幌市の記録より大きく下回った種目 ・反復横跳び ・ハンドボール投げ	・反復横跳びに関しては、敏捷性を高める活動やスポーツに取り組む時間が短かったことが原因として考えられる。ハンドボール投げについても同様である。	
体力・運動能力 ＜女子＞	○全国・札幌市の記録と同程度もしくは上回った種目 ・なし ○全国・札幌市の記録より大きく下回った種目 ・反復横跳び ・長座体前屈	・長座体前屈など、継続して取組を行わなければ結果が出にくい種目には、昨年と同様課題が見られる。保健体育の授業開始時に補強運動を行うなどの継続的な対策が必要である。	
運動・スポーツへの意識、運動習慣	「運動やスポーツをすることが好き」と回答する子どもの割合 男子 83.1%（全国－6.3% 札幌市－6.5%） 女子 72.6%（全国－3.9% 札幌市－3.1%） 体育の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない子ども」の割合 男子 12.9%（全国＋1.9% 札幌市－2.2%） 女子 31.5%（全国＋6.6% 札幌市＋3.8%）	・運動やスポーツをすることが好きな生徒の割合は全国・札幌市と比較し、大きく下回った。また、運動機会を確保している生徒の割合についても非常に低い結果となり、今後は楽しさや達成感を味わうことができる授業や取組を増やすなどの対策をしていく必要がある。	
三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実
具体的な取組	・1人1台端末を効果的に活用し、自分の学習を振り返ったり、修正したりすることができる授業づくりを行う。 ・自分の学習を単元ごとに振り返り、次の単元に向けて調整できるようにワークシート、授業づくりを行う。 ・教師間の連携をとりながら、授業の方法や評価について共有し、授業内容の充実を図る。	・保体常任委員会によるスポーツレクを昼休みなどの時間を活用しながら実施する。 ・学校祭などの学校行事と連携を取りながら、体育の授業の成果を発表するなど、表現する場を設ける。 ・昼休みにグラウンド、体育館を開放し、ボール貸出しをするなどして、運動する機会を設ける。	・部活動では「札幌市部活動の方針」に基づいた休養日の設定や体制の整備をする。 ・保体常任委員会による食に関する取組を行い、関心を高める。 ・「ほけん便り」を活用し、自らの生活習慣を振り返る機会をつくる。
家庭・地域との連携・協働	・助産師による講演を行い、性に関する指導の充実を図る。 ・栄養教諭を招き、食育セミナーを行うことで、食への関心を高める。		